

米軍基地だのみは 地域経済を破壊する道

住み続けられるための環境整備や農業、水産業などの振興は住民の当然の願いです。ところが、この願いに「米軍基地ができれば、米軍再編交付金や周辺環境整備補助金などが出る」という話が流されています。しかしこのような米軍基地だのみで本当の地域経済の発展や振興ができるのでしょうか。

いま沖繩をはじめ米軍基地を抱える多くの自治体では、深刻な被害と経済の疲弊にあえぎ、基地に頼らない自治体を目指して経済活性化の必死の努力が住民のみなさんによって進められているのです。

地域の「宝」を生かした 振興策こそが必要

米軍基地が計画されている丹後地域は、豊かな自然と歴史・伝統、ロマンと人のふれあいを「宝」とした取り組みが進められています。基地予定地近辺の袖志(そでし)は、「全国の棚田百選」に選ばれた景勝地です。米軍基地計画はそれに逆行するものです。

かつて京丹後市の中山市長は「環境と調和した発展を目指す市に(原発は)なじまない」(2006年2月)と発言しています。基地や原発頼みではなく、全国の人が行ってみたいと思う地域づくりや産業振興策に全力を注ぐことが必要です。北部の振興について共産党もがんばります。

京都に米軍基地はいらない 日本海を平和の海に



倉林明子府国政対策委員長(左)と井上さとし参議院議員がレーダー配備基地を視察

井上さとし

日本共産党 参議院議員(比例区)

京丹後市への米軍Xバンドレーダー配備は、米軍の「ミサイル防衛システム」に組み込まれるもので、京都が米国の先制攻撃のための最前線基地となる危険性があります。レーダーを配備することは東アジアの緊張を激化させるものでしかありません。

また、レーダーの電磁波によって人体への危害や通信、住環境への影響も心配されています。

この間、京都のみなさんと一緒に、航空自衛隊経ヶ岬分屯基地の調査や防衛省との交渉を行いました。ひきつづき国会でも追及し

てまいります。

日本海に面し、自然豊かな京丹後・経ヶ岬を米軍基地にさせるわけにはいきません。京都に米軍基地を作らせないため、全力を尽くします。

倉林明子

日本共産党・府国政対策委員長(選挙区)

井上さとし参議院議員、吉田早由美(党京都府委員会米軍専用基地問題対策委員会責任者)、府会議員団などと一緒に、米軍専用レーダー基地配備計画地の視察を行ない、宮津市、伊根町、京丹後市と懇談しました。説明会では、肝心な情報がかめないと不安が共通して出されました。住民の安全と安心を守るのが役割だと繰り返し話された首長の思いをしっかりと受け止めました。また、住民の皆さんも「説明を受ければ受けるほど不安は募るばかり」との声も聞きました。この声を受けて、防衛省と交渉し、計画の中身を明らかにするよう求めました。

京都を戦争の渦中に巻き込む米軍基地は、何としても止めなければなりません。

「京都に米軍基地はいりません」の声を一緒に上げていきます。



防衛省と交渉する